

	昭和二〇	1945	七月十九日、焼夷弾攻撃により、櫛形村の伊師浜、伊師町に被害が及ぶ 八月十四日、ボツタム宣言を受諾
現代	昭和二十	1945	八月十五日、戦争終結
	昭和三〇	1955	二月十一日、櫛形村と黒前村が合併して十王村が誕生する。
	昭和三一	1956	一月一日、町制を施行し、十王町が誕生する。 一月、役場新庁舎が完成する
	昭和三四	1959	四月一日、櫛形中学校と黒前中学校が統合され、十王中学校となる
	昭和三七	1962	十二月、石尊山頂に NHK のテレビ中継放送所が完成する
	昭和四一	1966	四月、石尊山頂に民放四社のテレビ中継所が完成する
	昭和四四	1969	二月二十六日、十王中学校に十王町初の体育館が完成する
	昭和四五	1970	七月、伊師浜海岸赤見台一帯が国民休養地に指定される
	昭和四六	1971	五月一日、国民宿舎「鶴の岬」が開業する 七月十日、高原小学校に十王町初のプールが完成する
	昭和四八	1973	一月三十一日、櫛形炭礦が閉山する 十月、座禪山工業団地造成完了 この年、上台団地、十王団地造成
	昭和五〇	1975	三月二日、十王町体育協会発足
	昭和五四	1979	五月十三日、町民体育館が開館する
	昭和五六	1981	三月二十七日、町制施行二十五周年記念式典が行われる
	昭和六〇	1985	七月三日、常磐自動車道日立南太田・日立インターチェンジ間が開通する
	昭和六二	1987	二月十四日、十王ダムの本体工事がはじまる
	平成 一	1989	九月二十六日、伊師団地の竣工式が行われる
	平成 二	1990	十一月二十日、役場新庁舎落成式が行われる
	平成 五	1993	四月十五日、十王パノラマ公園が開園
	平成 六	1994	五月十二日、第一回鶴飼サミット(岐阜市)に十王町が特別参加する 五月二十七日、十王ダムが完成し竣工式が行われる。大噴水やカリオン棟なども整備される
	平成 八	1996	十一月、十王町総合健康福祉センター完成(十二月一日から業務開始)
平成一三	2001	四月、鶴来来の湯「十王」オープン	
平成一四	2002	十二月二十五日、十王台遺跡出土十王台式土器が県指定文化財に指定される	
平成一五	2003	四月四日、法定の日立市・十王町合併協議会を設立する	
平成一六	2004	六月、ウミウ捕獲場が崩落する 三月十三日、常磐線川尻駅の名称が「十王駅」に改称される 十月、新ウミウ捕獲場が完成する	
平成一七	2005	十一月一日、十王町、日立市と合併	
平成一八	2006	八月、JR十王駅がリニューアル 八月、十王支所に県北生涯学習センターがオープン	
平成二〇	2008	四月、十王交流センターがオープン	
平成二一	2009	七月、たかはら自然体験交流施設(たかはら自然塾)がオープン	
平成二六	2014	十一月一日、日立市との合併 10 周年を迎える	
平成三〇	2018	十月十五日、「長者山官衙遺跡」及び「常陸国海道跡」が国指定史跡に指定	
令和四	2022	三月、県道日立いわき線(砂子沢バイパス)及び県道十王里美線(十王北通り線)全線開通	
令和五	2023	六月、国民宿舎鶴の岬が 35 年間連続で国民宿舎の宿泊利用率全国 1 位を達成	
令和六	2024	十一月一日、日立市との合併 20 周年を迎える	

～十王地区の概要～

十王地区コミュニティ推進会は、旧十王町をその区域(72.12k m²、日上市面積 225.73k m²の約 32%)とし、人口は、12,369 人(5,076 世帯)(9/1 日常住人口)、区域の約 66%)は森林であり、十王川と小石川が流れ、その地域に集落や耕地が形成されてきた。現在の高齢化率は 32.2%、75 歳以上人口比率は 17.2%である。(令和7年4月1日住民基本台帳人口)

十王駅は平成 17 年 8 月にリニューアルされ、その周辺には市街地が形成されている。住宅団地も多く、「いぶき台」や「城の丘」は大規模な団地である。商業施設等は隣接する川尻地区等を利用する住民も多い。

～十王地区の略年表～

時代	年号	西暦	主なできごと
原始		BC約1万2000 BC約7000 AD200	縄文文化はじまる 大字友部の風早に小規模な集落がみられる (風早遺跡) 大字伊師から伊師本郷にかけての十王台の台地に、十王台式土器を使った人々の大規模な集落がみられる(十王台遺跡、十王台南遺跡、十文字遺跡、藤ヶ作台遺跡、西上台遺跡)
古代		300 550～650 645 719 717～723	古墳時代はじまる この頃、前方後円墳、円墳を含む古墳群がつかわれる(十王台古墳群、大字伊師薬島台古墳群) 大化の改新 この頃、薬島駅屋が設置される この頃、「常陸土記」に編纂され、そのなか に薬島駅屋、碁石浜などの記事がみられる
近世	慶長七 延宝二 文化一二	1602 1674 1815	五月八日、徳川家康、佐竹義宣に秋田移封を命じる 伊師村は、伊師浜、伊師本郷、伊師町村の三か村に分村する 友部村で石炭が採掘される
近代	明治四 明治六 明治一六 明治一九 明治三〇 明治四二 明治四五 大正五 大正九 大正一一 昭和七 昭和一二 昭和一一四 昭和一一六	1871 1873 1883 1886 1897 1909 1912 1916 1920 1922 1932 1937 1939 1941	七月十四日、廃藩置県、十王地方は水戸県となる 六月二十九日、興藝小学校(のちの友部小学校)が開校する 六月、山部小学校(時習舎)が開校する 八月の頃、黒坂小学校が開校する 十月、高原小学校が開校する この年、伊師小学校設立される 友部村に巡査派出所が設置される 四月十、小学校令公布。友部小学校は友部尋常小学校となり、伊師小学校は同校に統合され、山部小学校と高原小学校は同校の分校場となる 二月二十五日、日本鉄道株式会社磐城線の水戸・平間が開通、友部(川尻駅)が開設される 十月、櫛形村消防組が設置される 四月、櫛形尋常小学校に三年制の高等科を設け、櫛形尋常高等小学校となる 五月九日、櫛形村役場の新庁舎が落成する 十一月一日、第一回国勢調査 櫛形村世帯数七五四、人口三三五五人。黒前村世帯数四六八、人口二一七四人。 十月、櫛形村富士越のいぶき山のイブキ樹叢が、文部省から天然記念物の指定をうける 櫛形村に電話が開通する 七月、櫛形鉱業所が櫛形炭鉱株式会社に譲渡される 四月一日、警防団令公布により、櫛形村、黒前村の消防団が警防団と改称される 十二月八日、太平洋戦争始まる

- め** 名刹(めいさつ)準別格本山(じゅんぺっかくほんざん)奥州壇林併設(おうしゅうだんりんへいせつ)の法醫院(ほういじゅいん)県下の末寺 120ヶ寺

も もう一度泊まりたい鶴の岬(うのみさき) 天然の温泉で海原眺め体も心もポッカポッカ

や 弥生後期の標識となる 十王台式土器 1点は国立博物館に収蔵(茨城県指定考古資料 1点は日立市郷土博物館に収蔵)
伊師から本郷にまたがる十王台と呼ばれる台地で友部の薄田宏氏が発見し昭和12年(1937)東京大学山内清男博士の鑑定を受けた結果縄文が主体でも縄文土器では無く、器形、布の圧痕特に粉痕があることが完全に弥生式土器であるとして十王台と言う形式名にされた、平成8年(1996)薄田宏顕彰事業の一環として、調査が行われ十王台式土器を使って4軒の住居跡や多数の土器が発見された、平成14年(2002)茨城県指定文化財となる。

ゆ ゆうゆう十王 福祉の拠点 今日も明るい声がする
平成8年(1996)十王町総合健康福祉センター(愛称ゆうゆう十王)として併設の多目的ホールの「ホール」を含め営業を開始した、隣接して昭和53年(1978)総合グラウンド昭和54年(1979)体育館昭和55年(1980)プールと次々と共用開始され駐車場も完備されていて、連日多数の利用者がある。

よ 横穴古墳が百基を超える 十王古代の貴重な遺跡

ら ライトアップで荘厳な 五重塔が夜空に浮かぶ
昭和62年(1987)立柱式をして2年後の平成元年(1989)稚児行列など盛大に落慶式(竣工式)が行われた、材料は国内での調達では台湾の檜を使用し、が、台湾もこの材料を最後に輸出を禁止した。関東屈指の五重塔である。

り 林木育種センター 日本の緑を守る 森林総合研究所
明治33年(1900)高萩宮林署が上苔苗圃を設置し国有林に植える苗木の生産を始めた特に杉苗は病害も少なく生育もよく県内全域に広がりたい大正時代には医師の農家で杉苗の栽培を始めた、県外まで販売され現在は独立行政法人 林木育種センターとして、花粉の飛ばない杉苗を開発育成している。

ろ ルーツ巡れば小野崎本家の 山の尾城址(やまのおじょうし)に十王中学校

れ 連続25年を超える日本一の利用率 国民宿舎鶴の岬
平成元年度(1989)以来、宿泊利用率日本一になってから平成26年度(2014)まで連続して日本一の座を守り、現在も継続中で称賛に値する。

ろ 老人の隠れた技の力作で 大好評の高齢者クラブ作品展

わ わが国 唯一の海鶴(うみう)の捕獲 元禄からの古い技

あとかき

分かり易く 簡単 正確をモットーにまとめました、特に戦国時代や古代のことは学者や資料によって異なる部分もあり私なりに判断して書きましたが、判断の誤り 誤字 その他の誤り等々当然のことながら多々あると思います、私なりに最善を尽くした心算です、来春を迎えた年寄りに免じて、ご容赦いただき、ご笑覧くだされば幸いです。

(読み制作所 小園健次(故人))

※この「十王かるた」は平成 27 年(2015)に、当時の十王地区高齢者クラブ連合会(高橋幸栄会長)が「小学生から高齢者まで、誰でも中心り易い文体で十王に古くから存在する名所遺跡旧県市が指定する文化財等を明らかに、古代から現在までの十王にかかわる事象を取り入れ、カルタを通じて交流を広げ、仲良く楽しく十王を知る一助になれば」との思いを込めて制作したものです。

そのため、現在とはその表記や状況が異なっているところもあります。

また、紙面の一部で解説の一部を省略しました。

※「十王かるた読み札」の「あいう」…「おおむねの場所」を、裏面の「コミュニティマップ」にそれぞれ表示しました。スペース等の関係上、あくまでも「おおむねの場所」であることをご理解ください。よろしくお願いします。

十王地区

コミュニティマップ

かるたで巡るふるさとマップ

安全で安心な
住みよい地域づくりを推進し、
地域福祉の充実を！



作成：十王地区コミュニティ推進会
2025(令和7)年 10月

「十王かるた読み札」

- あ** 愛宕神社(あたごじんじや)の椎(しい)の木は 日立市指定天然記念物
天正4年(1576)の造営とされ、火の神様として栄え祭日は近郷近在からの多くの氏子を地域の各家庭で接待していた。祭日を3月の第1日曜とした。

い いぶき樹叢(いぶきそう)は国の天然記念物 自然分布の北限地(ほくげんち)
伊師浜海岸の北端にあり大正11年(1922)イブキ樹叢として国の天然記念物に指定される、自生しているイブキは他にもあるが樹叢をなしているのは無い。元禄10年(1697)水戸光圀もイブキ山を訪れた記録がある。

う 海鶴渡来地(うみうとらいち)鶴の岬(うのみさき) 県指定天然記念物

え 駅の柱に刻まれた10人の王を祀(まつ)った十王堂これが十王地名の起源(おこり)

お 大原道標(おおはらどうひょう)元禄時代の道標(みちしるべ) 市指定有形民俗文化財
十王地方で確認されている中で最も古い元禄16年(1703)に立てられた大原道標は十王ダムの湖畔にある。(黒田入口の道標も有形民俗文化財に指定)

か 空堀が昔のままに残ってる 権現山(ごんげん)の櫛形城址

き 黄色く色づく山部のみかん 200年の歴史を誇る 特産品

く 櫛形城(くしがたじょう)の城門が法鷲院(ほうじゅいん)の山門として残っていた(東日本大震災後解体)

け 県生涯学習センター 長寿社会の人づくり
元の十王町役場の庁舎を日立市十王支所と県生涯学習センターで共用している。石炭産業が盛んな頃、鉄道の引き込み線が此処まで来ており、櫛形炭鉱の石炭輸送の拠点であった処です。

こ 古代道路の浜街道 今も名残の一里塚

さ 桜の名所パノラマ公園 UFOの展望台(てんぼうだい)
公園建設当時35種類400本の桜を下から順次咲き始め上部まで1ヶ月かけて花見を楽しめるよう植栽した、常磐道のトンネルの真上には UFO 展望台が設置されている、広い芝生や滑り台など家族みんなで楽しめる公園である。

し 城の丘(しろのおか) 海を見渡す絶景(ぜっけい)の安心して住めるセキュリティタウン

す 砂浜も海も施設も快適な 「日本海水浴場百選の伊師浜海水浴場」

せ 石炭で栄えた頃が懐かしい あのズリ山にゆうゆう十王

そ 遡上(そじょう)する鮭(さけ)の群(むれ)ねなす 十王川

た 堅破山(たつわれさん)登ればブナの原生林(げんせいりん)日立が一番高い山
堅破山は標高658mの山で「花園花賀県立自然公園」に含まれる二の鳥居から山頂まで2kmの登山道は神秘的な巨岩奇石が点在する、黒坂の命が蝦夷征伐から凱旋の途中お参りに角枯山まで来て、病没された後黒前山に改められた、その後八幡太郎義家が、欧州征伐に向かう途中、夢に現れた神から与えられた太刀を、石に向かって振り下ろしたところ二つに割れたので駅置の金堂と八幡の宝社を造営してそれ以来堅割山と称したとある。

ち 地産地消(ちさんちしょう) 新鮮野菜 今日も鶴喜鶏喜(うさうき)大繁盛
地域産業の活性化を図るため、地域で生産された安全で安心な農産物を地元で消費する、地産地消施設として整備された「鶏来鶏来」は消費者と直結した農家の育成や、生産加工における商工業の連携で運営は大きな成果を挙げている、10年を経過して連日多くの利用者が賑わっている。

つ 角枯山(つのがれさん)黒坂命(くろさかみこと)の伝説と八幡太郎(はちまんだろう)太刀割(たちわり)の石